

記者発表資料配付日時

平成26年11月17日

情報提供先

別紙のとおり

地元の女子高校生が土木の現場を見て、聞いて、創造します ～斐伊川放水路において建設業の魅力を紹介～

地域の将来を担う地元の女子高校生に建設業への関心を持っていただくために、1700年に造られ現在も出雲市内を潤している来原岩樋と昨年完成したばかりの斐伊川放水路の見学会を行います。また、女性土木技術者が建設業の魅力を紹介します。

さらに、女子高校生から広大なオープンスペースである斐伊川放水路の利活用についての提案を行ってまいります。

1. 実施日

平成26年11月20日(木) 14:30～16:30

2. 実施場所

斐伊川放水路分流堰周辺（出雲市大津町）（別紙参照）

3. 実施内容

【第一部】土木の現場の魅力を紹介します

・「来原岩樋」(土木学会選奨土木遺産)の見学

江戸時代に造られ、今年、土木学会選奨土木遺産に認定された土木構造物「来原岩樋」を見学します。

・「斐伊川放水路事業」平成25年度全建賞受賞記念プレートの除幕式

昨年6月に完成した「斐伊川放水路事業」が平成25年度全建賞を受賞しました。受賞記念プレートの除幕式を行うとともに、現代の土木構造物である斐伊川放水路を見学します。

・女性技術者による建設業の魅力紹介

出雲河川事務所が今年度発注した工事の現場代理人を務める、今岡工業(株)土木事業部主任の昌子優里しょうじゆうりさんが、建設業の魅力を紹介します。

【第二部】斐伊川放水路の利活用について意見交換します

斐伊川放水路は、完成後4度の洪水を分流し、その効果を発揮しているところですが、平常時は広大なオープンスペースとなっており、新しい利活用の可能性を秘めています。

そこで、斐伊川放水路の利活用について、女性技術者を交えて意見交換し、女子高校生から利活用のアイデアを提案してまいります。



4. 参加予定者（31名）

松江市立松江女子高校	17名	（二年生 8名、三年生 8名、教員 1名）
国土交通省職員	10名	
出雲市職員	1名	
建設業関係者	3名	

問 い 合 わ せ 先

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

TEL : 0853-21-1850（代表）

副所長

たけべ まさみ
武部 真実

（内線）205

建設専門官（神戸川・放水路関係）

はまた けんいち
浜田 健一

（内線）401

計画課長（ミズベリング関係）

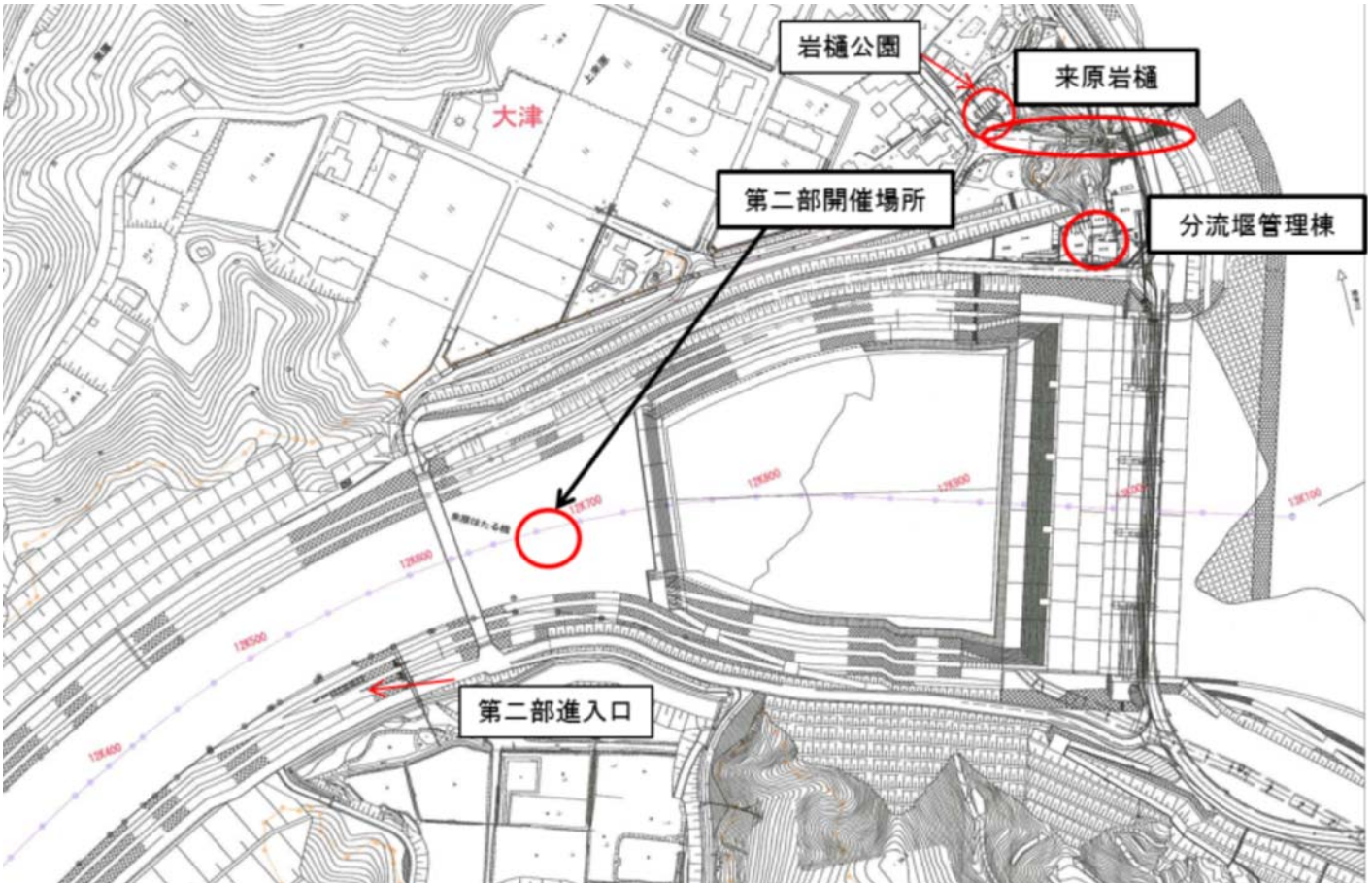
すずおき まお
鈴置 真央

（内線）261

●情報提供先

島根県政記者会、出雲市政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ
 (有)建設興業タイムス社

●実施場所



●スケジュール

- 14:30 岩樋公園駐車場 集合
 来原岩樋の見学
- 14:50 斐伊川放水路分流堰管理棟において、全建賞記念プレートの除幕式
 女性技術者による建設業の魅力紹介
 斐伊川放水路の見学
- 15:20～第2部の実施

●補足説明

<全建賞>

全建賞は、我が国の建設技術の発展に寄与することを目的に昭和28年に設けられ、以降、毎年建設技術の活用並びに公共事業の進め方やストックの運用の工夫などにより特出した成果のあった事業を実施した機関に一般社団法人 全日本建設技術協会が授与するものです。

<来原岩樋について>

別紙参考資料を参照

(平成26年10月17日付け出雲市産業観光部農林基盤課による「来原岩樋の土木学会選奨土木遺産認定について」の記者発表資料より)

～来原岩樋について～

来原岩樋は、岩山に穴（間府（まぶ））を掘って造られた、斐伊川から高瀬川・間府川への取水口です。

当初は、1680年代（貞享（じょうきょう）年間）に大梶七兵衛により斐伊川土手に敷設された木樋でしたが、取水を確実にするため、1700年（元禄13年）に、松江藩が木樋より少し上流の岩山を開削して来原岩樋を造ったとされています。

岩樋の規模は、幅約2.6m、高さ約4.2m、長さは約9.1mです。

当時は、農業用水の取水だけでなく、斐伊川と高瀬川をつなぐ高瀬舟の往来にも利用されていました。斐伊川は天井川（てんじょうがわ）であり、高瀬川との水位の差が大きかったため、来原岩樋は3段のゲートを上下させることにより水位を調整しながら船を通過させる「閘門（こうもん）式構造」を持っていました。この構造の大規模なものとしては、パナマ運河が有名です。

来原岩樋は、わが国に現存する運河閘門としては最古級であり、国内では珍しい連続閘門となっていることが評価され、今回の認定に至りました。

